

06

June
2024

[月刊] キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2024年6月1日発行(毎月一回1日発行)第798号

出会い・本・人

「チック」が先か、「タック」が先か 菅原裕治

特集シリーズこの三冊!

ジェンダー、性差別…モヤモヤした時に、この三冊

岡田 薫

本・批評と紹介

小見のぞみ著 聖書のお話を子どもたちへ 片山知子

大頭真一と焚き火を囲む仲間たち編著

聖化の再発見 シバング篇 林 牧人

齋藤五十三著 神の子とする恵み 丸山忠孝

矢田部千佳子著 愛に祈る人 加納孝代

浅野忠利著 修道院からモダニズムへ 田淵 諭

川村信三、清水有子編/キリシタン文化研究会監修

キリシタン1622 大橋幸泰

ICU伝道献身者の会編 われら主の僕 藤本 満

◆ 既刊案内

◆ 書店案内

『信徒の友』記事を再編集した、信仰生活の基本を確認するシリーズ



第2期、刊行開始！

第2期
第1回
配本

信仰生活ガイド《全8巻》 祈りのレッスン

柳下明子 編

2024年5月17日刊行予定

初めて祈る人から、ベテランまで、すべての人にお届けする「祈りの手引き書」。「祈りって何？何をどう祈る？」という祈り入門から、教会の歴史の中で捧げられてきたお手本になる祈りの紹介、礼拝の中での祈りについての解説、日々の祈り方の具体的な提案などを収める。◆四六判 並製・128頁・定価1,540円

第2期
続刊予定

『老いと信仰』(2024年7月刊行予定) 『苦しみの意味』(2024年9月刊行予定)

第1期 好評発売中

各巻 定価1,430円



『主の祈り』

『十戒』

『使徒信条』

『信じる生き方』

『教会をつくる』

「敬神愛人」をめぐる系譜と群像

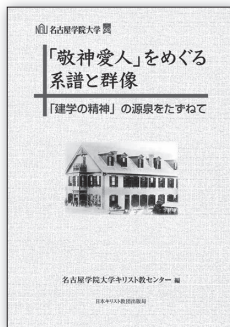
「建学の精神」の源泉をたずねて

名古屋学院大学キリスト教センター 編

2024年5月20日刊行

名古屋英和学校創立者F.C.クライン、社会運動家U.G.モルフイ、神学部長を務めた内村鑑三、大学初代学長福田敬太郎……大学創立60周年を迎える名古屋学院に関わった4人に、建学の精神「敬神愛人」のルーツをたどる論考集。

◆A5判 上製・296頁・定価4,400円





「チック」が先か、「タック」が先か

菅原裕治

「君は時計の『チック』と『タック』の音、どっちが先だと思うかね?」。

33年前、赴任していた教会の主任牧師・神学校旧約学教授の西村俊昭先生からそう尋ねられました。日本聖書神学校を卒業して3年、日本基督教団正教師になったばかり、30歳未満の私には、質問の意味すら分かりませんでした。その時、フランク・カーモードの『終わりの意識 虚構理論の研究』（岡本靖正訳、1991年、国文社）を紹介されました。この本は、聖書学ではなく英文学、批評学の本です。歴史的批判的方法ではなく、構造主義的方法の旧約研究者であった西村先生は、勉強不足を感じていた私に、学びのヒントを下さったのです。

本書「Ⅱ虚構」においてカーモードは、ギリシア語クロノスとカイロスを用い、カイロスは、クロノスの中で区切られた時、意味付けがなされた時間とします。文学作品の構築は、虚構として意味付けされたカイロスの中で、時間のプロットを用いて

なされるのです。カーモードは、その最も簡潔なものを、時計の音「チック・タック」と例えます。「チック・タック」は、意図的に意味付けされた区分、意図的に成立した時間なのです。本来ならば、「チック・タック」も、「タック・チック」も同じだが、意図的な意味付けによって差異があるとされる、それをどう思うか?それが冒頭の質問の意味でした。

現代は、社会構造の複雑化に伴い、歴史という概念を用いて、この時間の意味付けが前面に出すぎているのかもしれない。歴史を学ぶことは大切です。しかし、「チック・タック派」と「タック・チック派」がその絶対的正当性を主張する限り、両者の和解は困難でしょう。

『聖書』も意図的に意味付けられた「チック・タック」の一つです。だからこそ、キリスト者はその意味付けを超えた存在を信じていることを、『聖書』から学ぶのだと思います。

(すがわら・ゆうじ 東京聖三一教会牧師、日本聖書神学校教授)



▼シリーズ この三冊！

ジェンダー、性差別

…モヤモヤした時に、この三冊

岡田 薫

(おかだ・かおる…日本福音ルーテル帯広教会牧師・札幌教会協力牧師)

敬愛する友からのSNSメッセージを受信。ある方へ「連絡先をお知らせしてもいいですか？」との確認でした。大切にされているなあ嬉しく感じつつ、この方の取次ぎであれば間違いなと即OKしたところ、この原稿執筆依頼が舞い込んでまいりました。いやはやびつくり！まさかご推薦くださるなんて。恐縮しきりでございます。提示されたテーマは魅力的。だがしかし……コアな読者が多い出版物に私ごととき書いても良いのだろうか？

そもそも要綱条件に見合う本が、私の本棚にあっただろうか？ としばし逡巡するも「何か良いつながりとなりませうように」と祈りと共に、取り次いでくれた友の思いに応じたい一心で全力投球あるのみ！ 勢いついでに、このテーマなら絶対に外したくない1冊を編集者に確認の上、謹んでお受けいたしました。

その絶対に外したくない1冊こそ『失敗しないためのジェンダー表現力

イドブック』（新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム、小学館）です。本書は「ジェンダー平等を日本で早く実現したい。それにはまず、自分たちが発信する記事から見直さなければならぬ——」（はじめに）という現役の記者たちの強い危機感と、自省の念を込めて綴られた「気づきの書」ガイドブックです。目次を見るだけでもワクワク×2。ガイドブックらしく、具体的事例のみならず改善策まで示してあるところが何とも親切。業界人・一般人の区別なく、ジェンダー問題に意識が向いていた人にもそうでなかった人にも今日から生かせる内容となっています。

第1章「ジェンダーの視点で見る表現——事例と改善案」では、「夫はフルネーム・妻は名前のみ」や「男女で分ける必要、ありますか」など、当たり前のように行われていた無意識の男

尊女卑と性別二元論を可視化して、それって本当？ 無意識の偏見あつたりしませんか？ と一つひとつ丁寧に確認して、改善案が提示されています。手元にあるのは第4刷（2022年）ですから、結構な勢いで増刷されている模様。世間がアップデートしているスピードに、キリスト教界隈はかなり出遅れているのではないかと危機感を抱きつつ、ぐいぐい引き込まれていきます。

第2章「ウェブで起きていること——変わる・変える意識とルール」は、内容がやや専門的になりますが、今や誰もがSNSなどを通して発信者となりうるのですから知っておいて損はありません。その中でも「もの言う女性へのオンライン・ハラスメント——太田啓子弁護士×武井由起子弁護士インタビュー」は読み応えがありました。匿名性によってオンライン・ハラスメ

ントを行う側はほぼダメージを受けない一方、被害を受けた側の損失は甚大。

第3章「弱者に寄りそうジェンダー表現——性暴力を伝える現場から」にも通じることですが、被害が矮小化され隠されたり、泣き寝入りしたりすることも少なかつたところに、勇気をもって被害を可視化し、声を上げる人たちが現れ、それを支える人々によって少しずつ変化している現状（報道する側の葛藤含め）が語られています。課題やハードルはまだ多くありますが、勇気をもって声をあげた人の声を無視せず、差別、偏見、暴力には黙さない態度で応じる姿勢でありたいという人々の姿に希望を感じました。

第4章「失敗から学ぶ人・組織作り——メディアの現状から」の最終部あたりに「意思決定の場が変われば表現も変わる」を目指して（241頁）という段があります。ジェンダー諸課題

がメディア内で放置されていた理由として、新聞労連は意思決定の場に当事者が不在であったためではないか、という問題意識を持ち意思決定の場にクオータ制を導入するなどして現場での改革を進めていきます。その取り組みが進んでいく中でさまざまな課題が「見える化」されていき、「ジェンダー格差やワークライフバランスの諸課題が男女共通のものであり、性別を問わず個人個人が尊重されているかどうかの人権問題であることが認識されました」とあります。意思決定の場面に近づくほど女性の割合が低くなる／当事者不在などの現象は、私たちの身近なところにもあるのではないのでしょうか？

本書と出会い、これまで漠然としていた違和感やモヤモヤの正体らしきものが浮かび上がってきたように感じます。また私自身も無意識のうちに「女

性は男性より劣る」「○○らしさ」などという無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）を内面化していたのではないかとハツとさせられました……。

まさに気づきの書。日常の中で当たり前のように繰り返され、見過ごされている小さな表現が、やがて大きな偏見や差別を育てていってしまう悪循環……から飛び出すきっかけの書。気づきによって変化が生まれ、新しい世界をつくっていくのなら、一刻も早く気づいたほうがいい！ 知ってしまったからにはもう戻れません。個人としても教会としてもジェンダー表現のリテラシーを高め、日々バージョンアップに励むのみ！ 強くお勧めする1冊です。

2冊目は『LGBTとキリスト教——20人のストーリー』（平良愛香監修、日本キリスト教団出版局）です。

この本については私が多くを語るより、

ぜひ手に取って証言されているお一人おひとりのいのちのことはに直接触れただきたい。一つひとつのストーリーとコラムには性と生の多様性、グラーデーシオンの豊かさがあふれています。読み進めるうちに自分の中に染みついていく無意識の偏見との対峙が起こるかもしれません。その時は、自分を絡めとっていた何かからの解放のきっかけ、チャンスだと受け止めそれとしつかりと向き合ってください。本書のまえがきにも「十人十色、全員が一人一人違うのだという前提がある社会を指す一助に、この本がなることを願っています」とあります。

3冊目は『呻きから始まる——祈りと行動に関する24の手紙』（栗田隆子、新教出版社）です。本書は世界中が未曾有のパンデミックに見舞われていたころ、『福音と世界』で連載された記事を書籍化したものです。帯にあ

る「私にとってフェミニズムと信仰はどちらも必要なものです」にまず心打たれました。そして「ここで書いたものは、空き瓶通信のように誰に届くかわからないけれど、それでも投げ送った手紙なのです」（この本を手に取ったことで感謝。というの、なんで女に生まれてきてしまったんだろう。男だったらこうは言われなかっただろうなあと溜息やぼやきを吐きつつ生きてきた私にとって、栗田さんのことばや文章との出会いは自分でも気づいていなかった心の武装解除への入り口となったからです。

「非男性牧師あるある」な出来事かもしれません、男性異性愛者が標準とされている場面に遭遇すると少なからずダメージを受けます。長年いくつものモヤモヤしたものがチクチクするものと格闘しながら、日本の片隅で務



『失敗しないための ジェンダー表現ガイド ブック』

新聞労連ジェンダー
表現ガイドブック編集

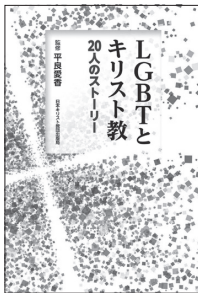
チーム：編

2022 年刊

四六判 262 頁

1,650 円

めに励んできました。いつしか自分の
中で咀嚼できていないようなことは、
無理して使っていることに疲れきって
いたのです。「既存の在り方や制度や
社会を疑うからこそ、自分の想像や枠
組みを超えるものがあると信じ、そし
てそれを『信じる』際には本当にそれ
は新しいものなのか、既存の誰かに



『LGBT とキリスト教 —— 20 人のストーリー』

平良愛香：監修

日本キリスト教団出版局

2022 年刊

四六判 240 頁

2,200 円

とつての特権的なあり方に過ぎないも
のなのか、そしてそれは信じるに値す
るものなのかを考える『疑い』が生じ
ます。これら二つの営為を振り子のよ
うに往復しながらこそ私は生き、また
生かしながら常に自分の狭い枠組みだけ
ではないものへと開かれ、言葉と行動
が生み出されていくと感じているので



『呻きから始まる —— 祈りと行動に関する 24 の手紙』

新教出版社

2022 年刊

四六判 245 頁

2,200 円

す」という栗田さんの言葉に、深い洞
察と慰めを与えられました。モヤッと
したものと私たちの付き合い方は自分自
身で決めていいのだと気づかされ、自
分のことばで語っていいのですよと励
まされた思いです。

子どもに聖書を語るための 最良のガイドブック

〈評者〉 片山知子



聖書のお話を 子どもたちへ

小見のぞみ著



著者は、キリスト教教育の領域で多くの実績を持ち活躍してこられた。筆者はかねてから、著者のキリスト教教育およびキリスト教保育への批判的思考による示唆に富む発言に共感させられている。本書は、著者が養成校での授業者としての実践をまとめられた著書ということで興味深く、関心を持っていたこともあり、早速読ませていただいた。

まず表題「聖書のお話を子どもたちへ」から、私は自身自身の体験を思い出させられた。教会学校の校長先生の語り口調、聞き手の反応を確かめるような眼鏡の奥で光るやや目じりの下がった眼の印象、そして神様や、イエス様のことをずいぶん良く知っている人だなあと思いつながら木造の礼拝堂の座布団が置かれた木の長椅子にちょこんと腰掛けていた、六十年前の私の姿である。

今、聖書のお話を聞くことのできる子どもは、どれだけ

いるのだろうか。そして教会学校やキリスト教保育の保育施設で、子どもに聖書のお話に出会う恵みを伝えることのできる語り手は、どれだけいるのだろうか。

幾つものキリスト教保育の園や教会の方々から、かつては子どもに聖書のお話をなさる優れた語り手がいたという思い出をうかがうことがある。それを辿ると、様々な物語を子どもに語る事が大事にされてきた歴史的背景が重なる。ところが今の時代では、物語る行為自体の価値が薄れていることも否めない。なおさら聖書の話は難しいものという印象を持つ学生や保育者は多く、それが今や普通だと思わなくてはいけないのが現実である。

そういう現実に向けて、著者は授業者としての経験から得られたであろう平易な文体で語りかける。本のサイズも手頃で、一章あたりの文字数も多すぎず、その中でキリス

ト教信仰の本質を伝える篤い姿勢が示されている。キリスト教教育の専門家である著者ならではの労作であろう。

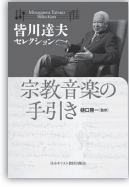
著者の師がスー・アルトハウスであること、さらにレギーネ・シントラーに学ぶと表明しての本書は、キリスト教保育を専門とする筆者にとっても、ひとつの原点を再認識させられる恵みともなった。そして授業を受けた学生による微笑ましい学びの成果が掲載されていることは、本書を手にした同世代の読み手から共感を得られるだろう。

教会とのつながりを持たない、多数のキリスト教保育を担う仲間にも本書を勧めたいと思う。学生だけではなく、今のキリスト教保育の実践を担い支える多くの保育者たちが、その保育施設に勤めることにより初めてキリスト教と出会うのである。そういう方々に本書はとてよいガイド

皆川達夫セレクション 宗教音楽の手引き

皆川達夫
樋口隆一 監修

クラシック音楽の魅力を生涯届け続けた音楽史学者が、グレゴリオ聖歌からミサ曲、受難曲、レクイエム、賛美歌など、キリスト教音楽の歴史と各ジャンルを楽しく紹介。四六判並製・128頁・定価1540円



ブックになるだろう。保育者たちが子どもに聖書のお話を語ることを「難しいこと」として及び腰にならず、楽しんで取り組み、聖書のお話の輪が広がることを期待したい。最後に、著者が大学の授業を振り返って本書で語る言葉を紹介する。「書き手には、大学で初めてキリスト教と出会ったという学生も多く含まれているのですが、その『聖書のお話』に、わたしは圧倒され、気づかされ、感動します。聖書が誰かによって物語られることで、今まで思いもしなかった新しい考えが、光がさすように与えられる――授業で毎年のようにわたしはそれを体験させてもらっているのです」。筆者が特に深く共感した一節である。

(かたやま・ともこキリスト教保育連盟理事長
四六判・一二八頁・定価一五四〇円・日本キリスト教団出版局)

三浦綾子 祈りの世界

おちあいまちこ写真



三浦綾子の祈りは今も色褪せず、生き生きと心に飛び込んでくる。そうした祈り31編におちあいまちこの写真を添える。さらに三浦綾子が祈りについて記した短文「祈りの姿」を収録。
A5判並製並製・80頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

日本における「聖化の再発見」 のための必読書

〈評者〉 林 牧人



聖化の再発見
ジパンング篇
大頭眞一と
焚き火を囲む仲間たち編著



北米由来のホーリネス運動は、日本においては中田重治という特別な器を得て、独自の進展を遂げ、今なお日本の教界全体に大きな影響を与えている。また、バックストンに連なる流れやナザレン教会といった拡がりを以て「きよめ派」と総称されることもままある。一方でいわゆる「主流派」に属するメソジスト教会は、日本においては日本基督教団の主たる構成要素の一つとしてあり、独自の教派教会としては存在しない。それゆえに、日本の文脈において「聖化」が論じられる際には、「主流派」と「きよめ派」との間の行き来が乏しいままとなり、互いの教理的立場について、旧態依然とした「思い込み」による誤認とズレが生じたままの現状がある。

およそ30年ほど前、この問題を自覚しつつ「日本ウエスレー・メソジスト学会」が設立されたが、これは、「主流

派」と「きよめ派」を縦断する「聖化」にまつわる議論と探求を行うことの出来る場として、現在もなお唯一無二の存在である。本書に登場する人々の中にも、ここに関わる者たちが多くいるのは、決して偶然ではないだろう。無論、編著者である大頭眞一氏もまた、学会の会員である。

大頭氏率いる「焚き火塾」のメンバーによって翻訳され、2022年に出版された『聖化の再発見』（英国ナザレン神学校著、いのちのことば社）は、「きよめ派」の諸教会に「おおむね好意的に迎えられた」と評されている。その特徴は「①体験中心ではなく、神と人との関係中心に、②個人主義的ではなく、共同体としての教会の聖化、③内面だけではなく、世界の破れをつくらうために、④プルーフテキストとしてではなく、神の大きな物語としての聖書」とまとめられている。「関係論的聖化」と定義づけられ

牧師の仕事は楽しい！

「焚き火」日記

牧師・大頭の

大頭眞一 [著]



人に出会い、話を聞き、聖書を語り、祝福を祈る。ただそれだけにとても奥が深い。日本が知らない聖職者の日常。

篆刻の達人、旧車オタク、ロックアーティストとの出会い、神学談義、地域の地鎮祭と牧師の祈り、結婚式で大ミス、教会で般若心経を読む会、イタズラメールとの戦い、バイクと事故と入院……。

ゆるゆると流されているようで、何かに導かれるような、ひとりの男の物語。

四六判・並製・168頁・定価1,430円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区新小川町9-1 4F
03-5579-2432 support@kirishin.com

「キリスト新聞」の連載、待望の書籍化！

「聖化とは三位の神のダンスに招き入れられること」という主張は「きよめ派」内外にある「思い込み」に対して大きな一石を投じるものであったことは確かである。

今回の『聖化の再発見——ジバング篇』は、これらの課題認識を確認しつつ、どうしたら、長年の「思い込み」から解き放たれて、より広く深い聖化の出来事へと招かれ、生きる事が出来るようになるのか、日本の文脈において考察した論集である。ボリュームに比して、「聖会」での説教あり、大頭氏ときよめ各派の指導者たちの対話あり、小論や書評ありと盛りだくさんな印象ではあるが、日本における「関係論的聖化」の定着による「聖化の再発見」を導くために必要なものとして、それぞれの論述が、かけがえのない光を放っている。

それら全てを貫いて、英国教会をとおして流れ込む東方教會的な影響を踏まえたジョン・ウエスレーの聖化理解に遡りつつ、それが、北米で個人主義的、体験主義的に変化して、日本にもたらされたことを自覚し、ウエスレーの聖化理解の豊かさを「再発見」し、「関係論的聖化」の具体化へと至る道筋を見出すことが出来るように導かれる。

『聖化の再発見』本論に触れていなくとも、まずは本書を読むことによって、課題認識を得た上で、本論へと導かれることは必定である。「思い込み」から解き放たれるために、「主流派」、「きよめ派」のみならず、あらゆる人々に手にしていただきたい書物である。

(はやし・まさと) 日本基督教団西新井教会牧師、日本基督教団出版局「信徒の友」編集長)

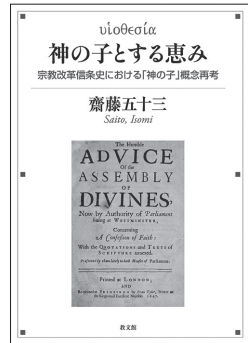
(四六判・二四〇頁・定価一八七〇円・ヨベル)

生き生きとして有用な 教理の再考

〈評者〉丸山忠孝

信仰者の救い全行程を一言で表現することは容易ではない。キリスト教の歴史で言えば、アウグスティヌスの『告白』、バニヤンの『天路歷程』、ウエスレーの『キリスト者の完全』を連想する者があるかもしれない。

ローマ・カトリック教会の基底を構成する救済論に信仰者の立場から挑戦したルターは、ロマ書やガラテヤ書から信仰者の生涯を「同時に義とされ、かつ罪人」と理解し、それがその後のプロテスタント伝統では主要概念となった。しかし、宗教改革時代ではその他の概念も提唱されていた。同じくロマ書、ガラテヤ書やエペソ書からカルヴァンが信仰者を歴史的に捉え、神が与える「神の子とする恵み」を受け取る者とみなす「神の子」概念も一例である。とはいえ、プロテスタント神学史ではこの概念は長らく等閑視されるどころとなり、ようやく二十世紀末から再注目されるに



神の子とする恵み
宗教改革信条史における「神の子」
概念再考
齋藤五十三著



至ったといわれる。

本書は「神の子」概念をめぐるこのような神学史の流れを背景として、オランダのフリー大学に神学分野で提出された学位論文に基づき、新たに書きあげられた著作である。そのため、一般読者対象の解説書を目指すよりは、現在進行中の学術論議を踏まえ、その過不足を見定めて著者独自の立場を提言する斬新な試みとなっている。とはいえ、論議展開における理路整然は当然としても、折々に広く読者を配慮した解説や注記が補足されていることから「今日、神学をすること」の意義や面白さを味わうことができる書でもあるといえる。

本書は確信の書である。これまで学位論文やそれに基づく著作に数々目を通してきたが、それらは研究書としての体裁さえ整っていれば、必ずしも確信の書である必要はな

い。しかし、パウロ書簡における「神の子とする恵み」(ヒュイオセシア) 概念に魅せられて研究を始めた本書の著者は、この概念が救済論における単一主題であるに留まらず、義認や聖化などと関連する総合主題であり、さらに神の選びから教会論、終末論へと至る信仰者の全行程理解にとって不可欠であると確信するに至る。

本書の内容は、この「神の子」概念を十六、十七世紀のプロテスタント教会が信じ、教えた信仰告白文書の周到かつ緻密な分析をもって検証し、概念の今日的有用性を提言するものである。その核心部にはツヴィングリの六十七箇条提題、ルターの大小教理問答からカルヴァン関連のジュネーヴ教会信仰問答などを経て、ノックスのスコットランド信仰告白、英国教会の三十九箇条、ウエストミンスター

信仰告白までの幅広い宗教改革信条の検証が置かれる。検証を通して著者が訴えんとする力点は、聖書から信仰者のあり方の抜本的再考を迫られた当時の教会が「神の子とする恵み」をいかに生き生きとして有用な教理であるかと信じ、教えたことに置かれていよう。そして、この訴えこそ本書をして煩瑣神学の落とし穴を回避させる一要因となっているといえよう。

急速に変遷する現代世界における家族の崩壊が取りざたされて久しい。「神の子」である信仰者個人、家庭人、教会人、社会人としてのあり方も危機に直面している。硬派の読み物ながら味わい深い本書が、読者の「現在」と「将来」に問いかけるものは必ずやあるう。

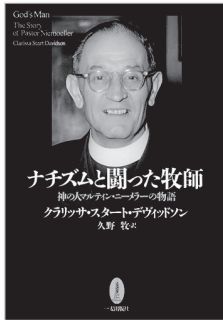
(まるやま・ただたか 元東京基督教大学学長・歴史神学教授
(A5判・六一四頁・定価六六〇円・教文館)



ナチズムと闘った牧師

神の人マルティン・ニーメラーの物語

クラリッサ・S・デヴィッドソン
久野牧*訳



「しかし、その時には手遅れであった」という有名な言葉の作者の疾風怒濤の物語。ニーメラーは言う、「もし戦争を防ぎたければ、平和のために働かなければならぬ」。彼はまさしくそのように生きた人物である。

A5判・上製本
定価 3,740 [本体 3,400 + 税] 円
ISBN978-4-86325-156-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

神への愛に生きた 知られざる女性伝道者の人生

〈評者〉 加納孝代

小ぶりな本であるが、そこに描き出される華奢で美しい明治生まれの女性の生涯は、一瞬言葉を失わせるほどの力をもって読者に迫る。

主人公は寶田愛子（一八九四―一九八五）といい、無教会キリスト者として夫と子供たちを懸命に愛し、支え、かつ社会に向かっては幼い者、少年少女、病める者、そして女性たちに神の愛とイエスを通しての赦しを語り続けた伝道者である。しかも無教会キリスト教の代表的指導者である内村鑑三、塚本虎二、矢内原忠雄の三名とも深い関わりをもった。

著者の矢田部さんは『女の視点で語る』という小冊子（今井館教友会の女性グループの二十六年にわたる研究活動を記した二十六冊の記録集）を読み、その中で山本玲子さん（山本書店主の山本七平氏夫人）が語った彼女の母の



愛に祈る人

無教会キリスト教伝道者
寶田愛子の生涯
矢田部千佳子著



寶田愛子さんの生涯に関心を持ったのだった。寶田愛子は福島県の現相馬市の生まれで、愛子の父吉田亀太郎は新潟に來た英国人医療伝道師T・A・パームの影響でクリスマスチャンとなり、牧師にもなった人である。

矢田部さんは山本玲子さんにインタビューを申し込み、玲子さんと妹の足立文子さんから愛する母の生涯について詳細に聞いた。併せて姉妹から提供された諸資料をもとにこの評伝をまとめられた。

愛子が結婚した相手は新潟県村上市出身の寶田一蔵で同じくクリスマスチャン。二人の間には恵一と、玲子、信子、文子の三人の娘が育った。愛子と一蔵は東京で内村鑑三の聖書の講義を聞き、内村の死後はその高弟の塚本虎二の聖書集會に出席、戦後は当時目黒区中根にあった今井館聖書講堂の一隅に住んで、矢内原忠雄が今井館で開いていた聖書

講義に参加するという形で、聖書を学び続け、「無教会人は万人祭司たるべし」との信念のもと、進んで聖書の真理とキリスト教の信仰を周りの人々に伝え続けた。

その間に関東大震災や太平洋戦争、そして厳しい戦後の時代があり、さらに夫の一歳が故郷村上に有していた家督すなわち全財産を失って貧苦の淵に沈み、娘たちの結婚の話をめぐる塚本虎二からは破門、矢内原忠雄からは厳しい叱責を受けるなどの苦難が続いた。それらすべてを我が罪のゆえと受け止め、魂を碎かれつつ、ほっそりした体を紫色の和服に包み、草履履き姿で、心身の疲労を厭わず、信仰のために駆け回ったのが愛子の波乱万丈の生涯であった。何より娘さん方が自分たちの母をこれほど深く敬愛し、矢田部さんに伝えようとされた事実には私は胸を打たれる。

ヨベルの新刊案内

「使徒の働き」連続説教 松木充著

「では聖書は何と言っているか、これが、すべての出発点となる。」『聖霊行伝』とも呼ばれる「使徒の働き」全28章に聖霊が働く宣教の足跡を丹念にたどった連続説教。週報に掲載されたその要旨を一冊にまとめ、聖霊が力強く働く信仰とは何か、その発見が散りばめられた本となつて新登場。四六判・二七八頁・一九八〇円

松木充
使徒の働き連続説教
話題！

志本キリスト教会主任牧師
シャローム幼児学園長

じつは最初、「愛に祈る人」というこの本の書名には日本語として違和感を覚えた。しかし読後の今は理解できる。寶田愛子がつねに祈っていた人であったが、その理由はまづは愛する夫や、夫から厳しすぎるしつけを受ける息子や、生き生き・伸び伸びと育っているがゆえに批判にさらされる健気な娘たちのためであった。また家族がそれぞれ背負わされている苦難がすべて自分の罪に発しているとの悔いから神とイエスによる赦しの愛を乞う祈り、そして祈りが聞かれたときに捧げられる愛なる神への感謝の祈り。そういう人の生涯はまさに「愛に祈る」と表現するにふさわしいと矢田部さんは思われたのであろう。どうか多くの方に本書を繙いて頂きたいと思う。

普遍啓示論 濱和弘著

そこに立ち現れる神

「愛に祈る」と表現するにふさわしいと矢田部さんは思われたのであろう。どうか多くの方に本書を繙いて頂きたいと思う。

（かのう・たかよ井井館教友会理事長）

（四六判・一二〇頁・定価一一〇〇円・教文館）

小井井福音キリスト教会教師

「愛に祈る人」というこの本の書名には日本語として違和感を覚えた。しかし読後の今は理解できる。寶田愛子がつねに祈っていた人であったが、その理由はまづは愛する夫や、夫から厳しすぎるしつけを受ける息子や、生き生き・伸び伸びと育っているがゆえに批判にさらされる健気な娘たちのためであった。また家族がそれぞれ背負わされている苦難がすべて自分の罪に発しているとの悔いから神とイエスによる赦しの愛を乞う祈り、そして祈りが聞かれたときに捧げられる愛なる神への感謝の祈り。そういう人の生涯はまさに「愛に祈る」と表現するにふさわしいと矢田部さんは思われたのであろう。どうか多くの方に本書を繙いて頂きたいと思う。

神も仏もないこの世界。それでも神はある。と語り得る矛盾と希望。3・11あの巨大な震えが、拠って立つところの神概念、信仰、救済論を揺るがせた。魂の救いだけではない、人間存在そのものを根底から掘いとはる福音はどこに？「普遍啓示論」(一般啓示論)にまで踏み込んだ一牧師のシリーズ第一弾。

金井孝一
普遍啓示論
そこに立ち現れる神
濱和弘
反響！

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

倫理性と合理性を継承する マイスター制度の重要性

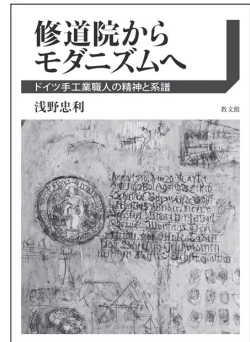
〈評者〉 田淵 諭

「修道院からモダニズムへ」のタイトルを見て、この二つの関係性に興味を湧いた。更に「ドイツ手工業職人の精神と系譜」という副題を見て、興味が増した。

西欧の歴史書やキリスト教の歴史書は、イタリアなどのラテン系社会を中心として語られることが多いが、本書はドイツ語圏から解き明かしている点に独創性を感じた。

民族大移動の話、修道院の歴史、建築の話、ゲルマン民族の話、ドイツの手工業職人やマイスター制度の話、モダニズムの話等、これら様々なテーマをそれぞれ専門に書いた本は多い。しかし、織物に例えると、縦糸に著者のキリスト教信仰を据え、横糸にそれぞれ異分野のテーマを織り込むことで、五世紀から現代までの西欧史を編み上げたところが本書独自の魅力となっている。

本書は大きく分けて「Ⅰ. 修道院への道」「Ⅱ. 中世手



修道院からモダニズムへ
ドイツ手工業職人の精神と系譜
浅野忠利著



工業職人」「Ⅲ. モダニズム」から成り、九章で構成されている。中でも第三章「修道院での創造」から第四章「中世の職人たち」は、読み応えがある。第三章では、修道院の戒律や営みが詳しく書かれていて、この章を読むだけでも修道院の知識が得られ、その日々を垣間見ることが出来る。やがて修道院に助修士が生まれ、彼らの活躍によって聖域と世俗を繋ぐ商人が出て来たことが語られる。第四章では、当時社会の富と知と技のほぼすべてがあつた修道院の「知と技」が、ゲルマン民族の商業やギルドなどの同業組合がその受け皿となったことが語られる。マイスター制度に注目し、手工業職人が中世以降の西欧の文化文明の発展を担ったことも知ることが出来た。

この手工業職人は義ただしくキリスト教を信仰し、「知と技」を修道院から継承し、最も大切にすることが「荣誉」だっ

たという。その根底に流れているものは「倫理性と合理性」であり、その後ワイマール体制の元では手工業的教育は人格教育であったことを、いろいろな例を引きながら解説している。営利活動が優先されがちな現代日本や世界において、この人格教育を伴ったドイツの制度と継承は忘れてはならない大切なことだと私たちに教えてくれる。また、著者は多様化した現代において、日本のタテ社会の問題点、特に「職業観を職業教育の根幹に据える必要性」を訴えているのは同感である。

本文中のコラムには、ウルム造形大学留学での経験、また近年再訪したことで得られた貴重な修道院・建築・祭り等について、建築家としての著者の目で書かれていて楽しめる。また、パウハウスやそれ以降のドイツ現代建築の解

説も豊富である。

エピソードで著者は、「個々人、大きささまざまな共同体のそれぞれが国家の枠を超えて『日々新たに!』『ひとつの世界』へ向かって飛び込まなければならない」というメッセージを発信している。そして、コリントの信徒への手紙二、四章一六一―一七節「だから、私たちは落胆しませんが、たとえ私たちの『外なる人』は衰えていくとしても、私たちの『内なる人』は日々新たにされていきます……」というパウロの希望に満ちた御言葉が添えられ、強く心に残るものとなっている。

後頁「参照・引用文献」は、是非読んでみたい。

(たぶち・さとし) 多摩美術大学名誉教授・大岡山建築設計研究所

代表取締役

(A5判・三三二頁・定価二七五〇円・教文館)

ヨベルの聖書学のご案内

携帯版 Q文書

山田耕太著

日本新約学会会長

日本における「Q」研究の第一人者が福音書及びイエス理解の深化を願い分りやすく開示した入門書! 「イエスの言葉伝承」は四福音書だけではなかった! 「Q文書」が対訳付・ハンデサイズで新登場! 使える・引ける・読める索引付きの決定版。

ヨベル新書判・一九二頁・一六五〇円

青野太潮 『どう読むか、新約聖書』 4刷 新書判・二二〇円
福音の中心を求めて

青野太潮 『どう読むか、聖書の「難解な箇所」』 3刷 新書判・一三二〇円
「聖書の真実」を探究する

大貫隆 『ヨハネ福音書解釈の根本問題』 *在庫僅少 四六判・一九八〇円
ブルトマン学派とガタマーを読む

大貫隆 『グノーシス研究拾遺』 *在庫僅少 四六判・二七五〇円
ナグ・ハマディ文書からヨナスまで

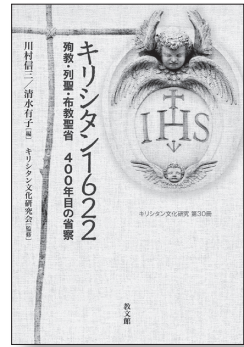
大貫隆 『原始キリスト教の「贖罪信仰」の起源と変容』 再版準備中 四六判・二二〇〇円

山口雅弘 『ガリラヤに生きたイエス』 2刷 新書判・一六五〇円
いの中の尊厳と人権回復

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

キリシタン研究の最新成果

〔評者〕 大橋幸泰



キリシタン1622

殉教・列聖・布教聖省400年
目の省察

川村信三、清水有子編

キリシタン文化研究会監修



長崎で元和大殉教が起こった一六二二年、ローマではイエズス会創設メンバーのイグナチウス・ロヨラとフランシスコ・ザビエルが列聖されるとともに、布教聖省が創設された。本書は、この年から四〇〇年目の節目にあたって、キリシタン文化研究会が取りまとめたキリシタン史研究の最新成果である。

本書は、序章（川村信三）、第一部「元和大殉教とキリシタン」（浅見雅一〈まえがき〉）／デ・ルカ・レンゾ／清水有子／竹山瞬太）、第二部「元和期の宣教活動——新たな時代の幕開け」（東馬場郁生〈まえがき〉）／阿久根晋／木崎孝嘉／小俣ラポー日登美）、第三部「潜伏キリシタンの信仰」（川村信三〈まえがき〉）／宮崎賢太郎／中園成生／東馬場郁生）、第四部「天下人の自己神格化とキリスト教」（清水有子〈まえがき〉）／川村信三／タイモン・スク

リーチ／野村玄）、終章（清水有子）、のように、四部二二本の論文によって構成されている。「殉教」・「宣教」・「潜伏」・「神格化」をそれぞれキーワードとする各部のテーマは、いずれもキリシタン史を考える上で欠かせない。どの論考も興味深いが、評者をもっとも興味を持った第三部「潜伏キリシタンの信仰」にしほってコメントしよう。

宮崎賢太郎氏がキリシタンは多神教であるから「『日本キリシタン式先祖教』とでも呼ぶのがもっとも実態にふさわしい」と主張するのに対して、中園成生氏は「地域に展開する信仰的要素はムラ（村落共同体）やイエ（家共同体）が持つ多様な側面の一つ」であり、「それはキリシタン・かくれキリシタン信仰についても当てはまる」と指摘し、東馬場郁生氏はキリシタンの信仰用具に注目して、その宗教活動について「潜伏」や「隠れ／かくれ／カクレ」

とは異なる独自の意味を考えようとしている。第三部のまえがきを担当した川村信三氏は、三者の議論を「問題提起の仕方は異なるが、目指されている結論は同じものではないか」という感想」を持ったという。確かに「従来の日本キリスト教史（キリシタン史）のヒストリオグラフィ（歴史叙述）への反省が、各々違った形で表現されている」という指摘はその通りであろう。そのことを確認した上で、東馬場氏が「歴史家がきりしたんの信仰を『適応』や『変容』と表現する場合、それを語る歴史家自身の立ち位置」は「宣教師のそれに近い」と指摘していることは特に重要である。なぜならば、歴史家がキリシタン史について考察しようとするとき、キリスト教は時間を遡っても不変であり、地域をまたいでも普遍であるという暗黙の理解を前提

としてきた問題性がするどく指摘されているからである。これを真摯に受け止めるならば、過去の事実を再構成してその歴史的意味を考えると、彼らと同じようにさまざまな判断をもたらしていることに自覚的であるべきである。そうした視点に立つて考えれば、キリスト教を厳格に定義づけようとする行為そのものが、時系列的にも地域的にも「正統」キリスト教とは隔たりがある潜伏キリシタンに寄り添うことにはならないのではないか。あらゆる枠組みは、できるだけゆるやかに理解するのが望ましい。だとすれば、キリシタンもキリスト教の一形態であると理解するのがよいというのが評者の意見である。

（おおはし・ゆきひろ＝早稲田大学教授

（四六判・三五二頁・定価三五二〇円・教文館



アジアの視点で読む ルターの小教理問答

J・P・ラジャシエカー 編著
宮本 新訳

●四六判並製 定価一〇〇円

本書は、アジアを背景に持つ六名の神学者によって、ルターの小教理問答をアジアの視点で文脈的に読んだものである。アジアの現実、特に宗教多元主義、また教会が直面している幅広い社会問題（貧困、家長制、不平等、生態学的危機）を考慮しつつ、教理問答の意味と重要性を再認識するための試みでもある。

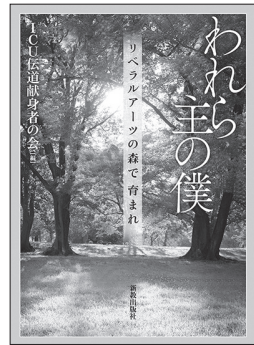
ISBN 978-4-86376-096-7

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

伝道者を数多く輩出してきた秘密

〈評者〉藤本 満



われら主の僕

リベラルアーツの森で育まれ

IICU伝道献身者の会編



IICUは、サンフランシスコ条約が発効された翌一九五三年、戦争により「空洞化した日本人の新たな精神的支柱として、世界平和に貢献するキリスト教的教養が日本に欠かせない」(4頁)との意識から献学され、以来七〇年を迎えた。本書には「伝道献身した」故人を含む七〇名もの卒業生が寄稿している。ブルンナーをはじめ教師の文章も掲載されている。

本書を読んでいると同窓会に招かれたように感じる。武蔵野の森で大学生活を送り、以来、各方面で主の僕として労している各人が当時を振り返り、真剣に学生と向き合ってくれた教師たちに感謝し、レベルの高い学びと人格形成、二度と来ない大学時代に思いを馳せている。

森に育てられた豊かさ

評者が興味深かったのは青野太潮の寄稿であった。彼は

高校時代に交換留学先のアメリカで、聖書のことばの絶対的な正しさを盾に、それに反する知性をことごとく批判する保守的なホストファミリーの影響を受けた。青野はIICU入学後、学内で同じような保守的信仰に立つ友人と伝道集会を開き、証しのパンフレットを配ったという。その頑な姿勢が「IICUの森の中で……音を立てて瓦解していった」(101頁)。偏狭で排他的とも言える信仰は、大学で体験した霊的・理性的・学問的授業に太刀打ちできなかったという思い出である。

保守的な背景で育った者がIICUに入学し、学びと教師との人格的な交わりを通して、より豊かな信仰に開かれていくことを証しする者は少なくない。梅津裕美は、入学して間もない自分が「自分の信仰の正当性を主張したい一心で突っ張っていた」(181頁)と述懐し、河野克也もIICU

の「C」にアンビバレントでありながら、それに魅了されていたことを振り返る（218頁）。

学生紛争時代、教師も学生も傷つく中で、当時パリから戻った森有正の特別講義「アブラハムの生涯」に耳を傾けた安積力也も同じであった。その森有正の文章も掲載されている（129頁）。文明のタイプにアシミレイション（同化）とアヴァンテュール（冒険）があるとしたら、安積は「本当のこと」を求める人生は必然的に『冒険』となることをICU時代に学んだという（106頁）。

リベラルアーツ

教師である武田清子は、今日の大学教育が「偏差値、専門知識や技術重視の中で、教養教育（リベラルアーツの教育）の不在の結果」（172頁）大学のみならず社会も変容していく危機を語っている。並木浩一は、「ICUのリベラルアーツにとって本質的な重要事は、教員が学生を独立した人格として尊重し、関わりを持つこと」（249頁）であり、そのような校風が七〇年の歴史を創り上げてきたと述べる。ICUもたしかに大学紛争で教師と学生の双方が深い傷を負った。それは本書の様々なところに記されているが、にもかかわらず、人格の尊重という点でやはり日本の大学の中でずば抜けている。本書の七〇名の証しは、「リベラル

アーツICUで学んだ伝道献身者たちの働きを検証する」（182頁）という編者の意図を見事に実現している。

一人ひとりの誠意

英国の病院でチャプレンをしていたウィリアムズ郁子は、あるときICUで英文学を講じていた齋藤和明氏を迎えた。彼はアーネスト・ゴードン著『クワイ河収容所』の訳者である。ウィリアムズは齋藤に、自分は日本人として英国に滞在しながら元戦争捕虜の人たちに何も出来ていないことを嘆いたという。すると齋藤から、「今なさっていることをそのまま続けてください」「イギリス社会で出会われる一人ひとりに誠意を込めて接し、信頼に基づく関係をコツコツと築いってください」との励ましを受けたという（185頁）。

卒業生の寄稿はすべてそのような証しなのである。

（ふじもと・みつる）
二インマヌエル高津教会牧師
（四六判・二七〇頁・定価二三一〇円・新教出版社）

既刊案内 (2024年2月～2024年3月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価	版元	発行日
大頭眞一と焚き火を囲む仲間たち編著	聖化の再発見 ジバング篇	四六	248	1,870	ヨベル	2/10
コリン・E・ガントン著 柳田洋夫訳	キリスト教信仰 ——キリスト教教理入門	A5	320	4,070	教文館	2/14
田中従子	ナジアンゾスのグレゴリオスの 聖霊論	A5	306	4,950	教文館	2/22
並木浩一	「読もう」シリーズ ヨブ記を読もう ——苦難から自由へ	四六	224	2,640	日本キリスト 教団出版局	2/20
山根道公	遠藤周作探究Ⅲ ——遠藤周作の文学とキリスト教	A5	352	4,180	日本キリスト 教団出版局	2/22
加藤久美子	文脈の中のアフォリズム ——箴言 10 - 12 章の構成 の研究	A5	352	6,600	日本キリスト 教団出版局	2/22
松田央	教会論と終末論 —— sacramentと終末論を 視野に入れた教会論	四六	254	2,200	新教出版社	2/26
ICU 伝道献身者の会編	われら主の僕 ——リベラルアーツの森で育まれ	A5	270	2,310	新教出版社	2/26
渡辺善太	渡辺善太著作選 15 善太先生「教会と政治」を語る ——聖書による第三の立場	新書	272	1,980	ヨベル	3/1
金子晴勇	キリスト教思想史の諸時代 別巻 2 ——アウグスティヌス『三位 一体論』を読む	新書	280	1,320	ヨベル	3/1
武田信嗣	さけびはとどく	四六	136	1,320	ヨベル	3/20
齋藤五十三	神の子とする恵み ——宗教改革信義史における 「神の子」概念再考	A5	614	6,600	教文館	3/6
F.H.バーネット作 脇明子訳	秘密の花園	四六 変	444	2,310	教文館	3/13
メアリー・タムソン著 中島耕二編 阿曾安治訳	タムソン宣教師夫人メアリーの 日記 (1872-1878)	四六	224	2,970	教文館	3/19
田中利光	ユダヤ慈善の近代化	A5	170	3,300	教文館	3/21
カール・バルト著 加藤常昭、楠原博行訳	説教と神の言葉の神学	B6	174	1,980	教文館	3/25
荒井克浩	無教会の変革 ——贖罪信仰から信仰義認へ、 信仰義認から義認信仰へ	A5	326	1,980	教文館	3/25
東洋英和女学院大学死 生学研究所編	死生学年報 2024 ——看取りの文化を構想する	A5	201	2,750	リトン	3/12
関西学院大学キリスト教 と文化研究センター編	エコロジカル聖書解釈の手引き	四六	104	1,650	キリスト新聞社	3/12

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価	版元	発行日
トマス・H・トロウ ガー、レオノラ・タブ ス・ティスデル著 吉村和雄訳	説教ワークブック ——豊かな説教のための15講	A5	200	3,300	日本キリスト 教団出版局	3/19
柴崎聰監修	あらずして読むキリスト教文学 ——芥川龍之介から遠藤周作 まで	四六	160	1,760	日本キリスト 教団出版局	3/21
大串肇	V T J旧約聖書注解 エレミヤ書 1～20章	A5	616	9,240	日本キリスト 教団出版局	3/25
中島英行	燃え尽きない柴 ——出エジプト記1章～6章 1節による説教 上	四六	136	1,760	一麦出版社	3/19

書店名	郵便番号	住所	電話	ウェブサイト	URL	メールアドレス	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinken_syoten_0530@atn00.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区御町1-3-6 エアツエF	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaids.uccj.jp/	info@sendaids.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県船橋区千舞カヌーセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisenchristian.jp/	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyodunkwan.co.jp	xbookse@kyodunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindobooks.jimdo.com/	taisindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都新宿区新川町9-1日ヶ坂内(外務専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkkan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.digitare.jp/yodhancds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市東区豊島2-16味科入(新藤葉緑苑)	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunshata.coocan.jp/	nagoya-seibunshata@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダント社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.ytdo.net/or.jp/people/kiydan/	kiydan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacds.web.fc2.com/	ochinbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三彌ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hselbun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	080-3142-3017		ykwb13@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/misayama_1007/index.html	sksch@docdokline.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハルルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-halenyua@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacds.net	info@okinawacds.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

証し
日本のキリスト者
最相葉目 著

オススメ!

横浜キリスト教書店
高橋彦彦さん
少数派である日本のキリスト者。多くの教会者と信徒の方々の体験を基にした「証し」が決して一様でないことを考えさせられる。自分自身の信仰について振り返る時に良い示唆を与えてくれる本。

定価3,498円

KADOKAWA

全国のキリスト教書店員が選んだ
いちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞

2024

主催 キリスト教出版販売協会

2023年1月~12月に
出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員が
大賞を選出します。

Christian Bookshop Awards 2024

あなたはあなたのままでいい
とっておきの聖書のことは23
片柳弘史 著 RIE 絵

オススメ!

教文館キリスト教書部
石中頼子さん
聖書の一節と片柳神父さまの話、RIEさんのイラストが優しく、そばに置いて読みたくなります。

定価1,595円

PHP研究所

疑いながら信じてる50
新型キリスト教入門 その1
富田正樹 著

オススメ!

リバーサイドブックス
川端洋一さん
入門者におすすめ。加えて信仰歴の長い方にもおすすめです。

定価1,540円

ヨベレ

ノミネート 10作品
(タイトル50音順)

価格は10%税込

カール・バルト
《教会教義学》の世界
寺岡喜基 著

オススメ!

キリスト教書店ハレルヤ
嶋津秀成さん
膨大なバルトの著書を一望できる入門書。

定価3,080円

新教出版社

交差するパレスチナ
新たな連帯のために
在日本韓国 YMCA 編

オススメ!

名古屋聖文会
伊奈均志さん
今こそパレスチナ問題を再考すべき。

定価2,640円

新教出版社

これからを生きるあなたへ
聖書の知恵 箴言31日
小林よう子 著

オススメ!

善隣館書店
大森紀代美さん
厳格な家父長制の時代に父から子へ語られた厳しい言葉の裏側を、今を生きる人たちにもぜひ伝えたいと、言葉の持つ可能性を信じ、なおかつ、神さまのあたたかいまなざしをさっぱりと語った1冊です。

定価1,320円

日本キリスト教団出版局

非暴力の教育
今こそ、キリスト教教育を!
小見のぞみ 著

オススメ!

京都ヨルダン社
田代伸一さん
教える者と教えられる者が認め合い、学び合い、感謝し合う、そこに教育がある。

定価1,760円

日本キリスト教団出版局

保育者の祈り
こどものために、こどもとともに
望月麻生 監修・著 小林路津子/新井純 著

オススメ!

CLCからだね書店
坂岡凱歌さん
こどもの心に寄り添い、隠れた思いを無視せず、丁寧に拾い上げて、より良いものへと導こうとする、保育者の祈りの言葉が書かれています。

定価1,320円

日本キリスト教団出版局

夕暮れに、なお光あり。
老いの日々を生きるあなたへ
小島誠志/川崎正明/上林順一郎/島しづ子/渡辺正男 著

オススメ!

松山キリスト教書店
平岡光司さん
熟練の牧師5人の共著で、大変読みやすく、ユーモアも交えた著書です。プレゼントに買っていく人が多く、年配の方々にもお勧めします。

6月
重版出来
予定

定価1,650円

キリスト新聞社

わたしが「カルト」に?
ゆがんだ支配はすぐそばに
齋藤 篤/竹迫一 著 川島堅二 監修

オススメ!

エッセイの木
永野香織さん
旧統一協会が話題になり気になっていた時にびびりだしていた。体験談など読みやすかったです。しかし内容が軽いわけではなく凝縮した1冊になっていると思います。

定価1,650円

日本キリスト教団出版局

福音と世界

2024年6月号

特集Ⅱ 依存と信仰

寄稿者Ⅱ 加藤武士、小西真理子、齋藤篤
杉岡良彦、栗田隆子

パレスチナからのメッセージ・瓦礫の中のイエス（ムンター・イサーク）／好評連載 証言としての旧約聖書（田島卓）、八木重吉の聖書（今高義也）、新約釈義ルカ福音書（山崎ランサム和彦）、『日本的キリスト教』を読む（山口陽） 古代イスラエル文学史序説（勝村弘也）ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から



わたしは以前勤めていた複数の出版社でよき出会いにめぐまれ、編集者として養われ、鍛えられました。そのことに感謝はしていますが、売り上げのノルマが厳しく、常に競争させられる中で生き馬の目を抜くような出来事もめずらしくなく、本当に大変でした。そんな中、週末に教会に行くことがこころの安らぎになっていたように思います。この世の価値観とキリスト教の価値観は違うのだから……と思うことで慰められていました。当時は仕事と子育てでワンオペで多忙を極めていて、教会では何の奉仕もしていませんでしたが、居心地のいいところでした。そして何より、逃げ場だったのだと思います。

ところが、キリスト教の職場で働くようになり、子ども

予告

本のひろば

2024年7月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）李聖一（書評）コリン・E・ガントン著『キリスト教信仰』、石浜みかる著『証言・満州キリスト教開拓村』、関西学院大学キリスト教と文化研究センター編『エコロジカル聖書解釈の手引き』、加藤久美子著『文脈の中のアフォリズム』他

が成長して手が離れ、教会でもわずかながら奉仕するようになるのでしょうか。今度は、キリスト教や教会とは一見関係のない人や事柄、出来事とおして神さまの愛を肌身で感じるが増えてきたのです。キリスト教ではこうだからとか、キリストチャンかどうかなどの線引きをする必要などなくなりました。

クリスチャンであることを喜び、恵みだと感じるのはいいのですが、ややもすれば優位であるかのような言動に触れるととても残念な気持ちになります。かつてのわたしにそういう部分があったので、余計にそう感じます。この世は世知辛いですが、それでも神さまの愛はあまねく及んでいて、そのことをキリスト教界限の外で、クリスチャンではない人たちから感じる事ができる幸いを思います。世俗社会で生きるキリスト者でありたいと願います。（市川）

主の来臨を待ち望む教会

エテサロニケ書論集

焼山満里子 著

パウロの来臨理解の真相に迫る



従来、キリスト来臨の「遅延」が問題とされてきたエテサロニケ書の真意とは何か。苦難における希望、キリストへの参与、兄弟愛の実現など、終末論から展開されるパウロ神学の全貌を明らかにする、画期的論文集！

● A5判・上製・170頁・定価2,750円

既刊好評発売中！

第一テサロニケ書講義・病床雑感

高橋三郎 著

新約聖書最初期の書簡を、当時の歴史的状况を探りつつ、ていねいに解き明かす第一テサロニケ書講義。併せて、交通事故に遭って死線を彷徨い、なおも病床にある著者の、キリストに待つ者の苦しみと恵みの一年半の文章を収録。

● B6判・並製・174頁・定価2,200円



義認の福音

エキクメニズムを目指す神学的研究

E・ユンゲル 著 佐々木勝彦 訳

教会分裂は本当に克服されるのか？



1999年にルーテル世界連盟とローマ・カトリック教会の間で調印された「義認の教理に関する共同声明」。この声明は本当に「教会の分裂を克服するための決定的な一歩」なのか？ 神学的論点のみならず、現代の聖書解釈と宣教の諸課題をも詳察した、「義認」を学ぶための最良の手引き！

● A5判・並製・386頁・定価5,390円

既刊好評発売中！

義認の教理に関する共同宣言

ローマ・カトリック教会／ルーテル世界連盟 著
ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会 訳

ほぼ500年にわたる対立の克服！ 宗教改革以来の長い分裂の歴史を乗り越え、カトリックとプロテスタントの対立の核心であった「義認」の問題についての共通理解に到達し、和解と一致への第一歩を踏み出した歴史的な文書。

● B6判・並製・112頁・定価1,100円

義認と自由

宗教改革500年 2017

ドイツ福音主義教会常議員会 著 芳賀力 訳

16世紀に教会と神学を一新し、社会・文化・政治をも新たに形成した宗教改革。その中心テーマであった義認論の歴史的・現代的意味を解説。宗教改革の世界史的意義を明確にし、将来へと開かれた学びを提示する画期的文書。

● B6判・並製・162頁・定価1,540円



クイア神学入門

その複数の声を聴く

5月24日

クリス・グリノフ著／薄井良子訳 レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを意味する「クイア」。その基本的な諸概念を平易に解説すると同時に、クイアと向き合う多様な神学的冒険の歴史、および最前線の議論を紹介する。

◆四六判・定価2970円

滝沢克己の現在

没後40年記念論集

5月24日



滝沢克己協会編 「純粋神人学」とは何か。滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした思想は、没後40年を経て今なお読む者を魅了し、挑発し続ける——それに応答する14名の渾身の論考を収録する。

◆四六判・定価3740円

奴隸より身を起して

ブッカー・T・ワシントン 自伝

ブッカー・T・ワシントン著／佐柳文男、佐柳光代訳／大森一輝解説



奴隸として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功していく過程を、生き生きと語る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像。必要なのは同化か闘争か？ 大森一輝氏（北海学園大学）によるワシントンの評価・受容をめぐる充実した解説を付す。

◆四六判・定価2860円

われら主の僕

リベラルアーツの森で育まれ

ICU伝道献身者の会編

大反響 ◆A5判・定価2310円

【寄稿者の一部】松永希久夫、小澤貞雄、新保満、竹前昇、原崎百子、川田殖、荒瀬正彦、齋藤和明、並木浩一、棟居勇、伊藤瑞男、斎藤剛毅、渡邊正男、絹川久子、長沢道子、左近和子、田中弘志、浅井重郎、吉馴明子、宮崎彌男、矢澤俊彦、青野太潮、安積力也、梅津順一、栗林輝夫ほか

ロゴセラピーと物語

重版出来！

フランクルが教える〈意味の人間学〉

勝田茅生著（NHK「こころの時代」講師） ◆B6変型判・定価1760円

フランクルの創始したロゴセラピーの中心メッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。著者はNHK「こころの時代」『ヴィクトール・フランクル』の講師（2024年4月～9月、第3日曜日／同週土曜日放映）



本のひろば.com



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二四年六月一日発行（毎月一回）発行
本のひろば 第七九八号 二〇二四年六月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3333-1652 振替00170-511679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教出版株式会社 電話03-3333-1657

定価七八円（税抜七一円）（¥63円）
一年分二二〇〇円（送料共）